

第4回

リコーダーの魅力

～楽しく演奏（1）～

学習のねらい

この「楽しく演奏」のシリーズでは、皆さんの身近にある楽器を取り上げます。実際に楽器に触って、それぞれの楽器が持つ多彩な音色、表現の多様性などを味わって、楽しんでほしいと思います。今回はリコーダーです。リコーダーは初心者でもすぐに音を出せる親しみやすい楽器で、時には華やかに、時には素朴にと、いろいろな音色を奏でてくれます。リコーダーの魅力を味わいましょう。



講師
末石忠史

リコーダーの種類と音の高さとの関係について学ぶ

リコーダーには大きさの違う種類がいくつかあります。それぞれのリコーダーを聴くとソプラノ・リコーダー、アルト・リコーダー、テナー・リコーダー、バス・リコーダーと違った音の高さであることがわかります。ソプラノ・リコーダーと比べると、テナー・リコーダーはちょうど2倍の長さに作られ、テナー・リコーダーはソプラノ・リコーダーに比べて1オクターブ低い音が出ます。それと同じ関係がアルト・リコーダーとバス・リコーダーでもなりたちます。

このように管の長さが2倍になると、1オクターブ低い音が出るというのが、管楽器の基本的な仕組みです。大きさの違う複数のリコーダーで演奏すると、ハーモニーを作ることができ、アンサンブルを楽しむことができます。

リコーダーの音色や表現の豊かさを味わう

今回ゲストのリコーダー奏者の水内さんに「ペツォールトのメヌエット」を演奏していただきます。「ペツォールトのメヌエット」は鍵盤楽器のための曲ですが、今回はソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの二重奏で演奏しています。



